Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

# TASPを活用した個別支援計画作成

NPO法人アスペ・エルデの会
辻井正次

1

## TASPクラウドの実施

- 具体的な実施方法は、この資料の後半にありますので、参照ください。
- 養育者・保護者の想いをしっかり聞くことは本当に大事ですが、児童発達支援の取り組みとしては、しっかりと客観的なアセスメントを並行して行うことが大事です。
- 長期的に考えてみて、支援課題がある場合、現在できることから順次取り組んでいくことが求められます。
- では、まず、TASPクラウドの結果のアウトプットの見方から進めていきましょう。
- なお、TASPクラウドにおいては、身辺自立関連項目は抜けている（補足スケールはある）ので、身辺自立における課題は別途設定することが望ましいです。

2

領域別評定結果

| 領域 | | 得点 | 要配慮水準 | 境界水準 | 標準的水準 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 多動・不注意関連特性 | 落ち着き | 5 | ・ | ○ | ・ | ①落ち着き領域に関する支援課題 |
| | 注意力 | 8 | ・ | ・ | ○ | ②注意力領域に関する支援課題 |
| 対人社会性関連特性 | 社会性 | 3 | ・ | ○ | ・ | ③社会性領域に関する支援課題 |
| | 順応性 | 7 | ・ | ・ | ○ | ④順応性領域に関する支援課題 |
| | コミュニケーション | 4 | ・ | ○ | ・ | ⑤コミュニケーション領域に関する支援課題 |
| 運動関連特性 | 微細運動 | 3 | ・ | ・ | ○ | ⑥微細運動領域に関する支援課題 |
| | 粗大運動 | 1 | ・ | ○ | ・ | ⑦粗大運動領域に関する支援課題 |

指数別評定結果

| 指数 | 得点 | 要配慮水準 | 境界水準 | 標準的水準 | |
|---|---|---|---|---|---|
| ADHD指標 | 13 | ・ | ・ | ○ | A ADHD指標に基づく支援課題 |
| ASD指標 | 14 | ・ | ○ | ・ | B ASD指標に基づく支援課題 |
| DCD指標 | 4 | ・ | ・ | ○ | C DCD指標に基づく支援課題 |
| 総合指数 | 31 | ・ | ○ | ・ | D 総合的な支援課題 |

3

## 領域別評定

- TASPはコホート研究を基に開発されたものであるため、幼児期の適応状態評価を基に、就学後の予測を含めた支援ニーズの評価を行うことができます。
- 領域別評定において；
- 「要配慮水準」の場合、しっかりとした個別的な支援が必要とされます。また、就学後、その後、将来においてもしっかりした個別的配慮が望まれることが予測されます。
- 「境界水準」の場合、2つの可能性が考えられ、支援がうまく積み重なった場合に「標準的水準」にキャッチアップする可能性もありますが、やはり将来にわたって個別的配慮が望まれる場合もあります。現時点としてしっかりと位置付けた支援が必要です。
- 「標準的水準」は、現時点として、ある程度、集団保育の中での(特別な個別支援なしでも)生活ができ、将来においても、そうしたしっかりとした個別的支援なく生活することができることが予想されます。

4

## 多動・不注意関連特性 ①落ち着き

- 落ち着き領域の項目においては、比較的、衝動性の側面が強く描かれています。場面に応じた行動のような内容も、すぐ対応できるというような観点で含まれています。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- 落ち着いた行動がとれ、場面のなかで衝動的ではなく振舞えていることを評価しています。
- ただ、気をつけないといけないのは、受動的なタイプのお子さんにおいては、行動を自分からしないことで、「○」できている評価になってしまう場合があるので、個別計画の際には気をつけて下さい。

5

## 多動・不注意関連特性 ②注意力

- 注意力領域の項目においては、不注意からくる整理整頓や忘れ物等の失敗や、コミュニケーションのなかでの聞き落としなど、不注意の側面が強く描かれています。コミュニケーション場面での行動のような内容も含まれています。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- 不注意による失敗なく、集中して情報を処理し、適切な行動がとれ、統制した行動ができていることを評価しています。
- ただ、気をつけないといけないのは、理解面からくるコミュニケーション上での失敗なども含まれてしまうため、個別計画の際には気をつけて下さい。

6

## 対人社会性関連特性
## ①社会性

- 社会性領域の項目においては、他者との活動が一緒にうまくできているか、基本的なやりとりができているのかという側面が強く描かれています。遊びや友だち関係が（同じ月齢の定型発達の子どもとの比較で）年齢相応にできているのか。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- 他者と年齢相応に適切にやり取りし、遊んだり、行動したり、友だち関係が持てているのかといった、「社会的コミュニケーションおよび相互関係における持続的障害」を評価しています。
- ただ、気をつけないといけないのは、「年齢相応に」という視点があるので、同じ月齢の定型発達の子どもと比較してどうなのか、個別計画の際には気をつけて下さい。

7

## 対人社会性関連特性
## ②順応性

- 順応性領域の項目においては、こだわりや、場面への切り替えの側面が強く描かれています。初めてのことや場面への対応のような内容も含まれています。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- 「限定された反復する様式の行動、興味、活動」のなかでのこだわり行動そのものよりは、日常的な表れとしての変化の場面において適切に振舞えていることを重視して評価しています。
- ただ、気をつけないといけないのは、こだわりにおいて「場所と物」としている部分で、特定のパタンへのこだわり含め、場所や物に関わる内容がないか（ある場合には、「〇」「△」となる場合もある)、個別計画の際には気をつけて下さい。

8

## 対人社会性関連特性
## ③コミュニケーション

- コミュニケーション領域の項目においては、コミュニケーションや言葉の発達の側面が強く描かれています。オウム返しのような内容も含まれています。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- コミュニケーションにおいては、呼びかけへの反応、言語発達、発音(構音)、ひらがなの読みなど、言語発達の基本的な指標を評価しています。
- 言語発達に関しては、2歳までに発語、3歳までに2語文といった基本的な言語発達を踏まえて評価して下さい。

9

## 運動関連特性
## ①微細運動

- 微細運動領域の項目においては、微細運動（つまり、手先の器用さ）の実用的な側面で、ハサミや書字、描画の側面が強く描かれています。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- 微細運動はさまざまな領域に関わるものだが、ここでは実際の実用的な行動で評価しています。
- ただ、気をつけないといけないのは、内容が書字や描画など、一定の理解力、特に言語理解力を前提としており、個別計画の際には気をつけて下さい。

10

## 運動関連特性
## ②粗大運動

- 粗大運動領域の項目においては、動きのスムーズさ、けんけんやスキップなどの粗大運動（つまり、全身の協調運動）の実用的な側面が強く描かれています。項目群を統計的に作成していくなかで、こうした形になっています。
- 粗大はさまざまな領域に関わるものだが、ここでは実際の実用的な行動で評価しています。
- ただ、気をつけないといけないのは、動きのスムーズさなど、同じ月齢の定型発達の子どもと比較してどうなのかを考量する必要がありますので、個別計画の際には気をつけて下さい。

11

## 指数別評定

- 指数別評定においては、TASPクラウドでは、オリジナルのTASPとは異なる指標を採用しています。
- ADHD、ASD、DCD指標として、各々、コホート研究においてADHD特性、ASD特性、DCD特性が高い傾向が高い指数を算出している。ただ、気をつけていただきたいのは、これは診断的な視点での評価ではなく、あくまでも一般的な発達特性の範疇での指数であることを理解していただきたい。
- 実際に、ADHD、ASD、DCDの診断的なアセスメントは、別途、診断アセスメント用の尺度を活用いただきたい。

12

## ADHD指標

- 一般的なADHD特性で、基本的に、「落ち着き」領域と「注意力」領域から算出される。
- 幼児期のADHD特性は、
- ADHDは以下の2つの症状群に分類されます：①不注意・②多動性・衝動
- **不注意の症状例**；細部に注意を払えず、ケアレスミスをする/課題や遊びの活動で注意を持続できない/話しかけられても聞いていないように見える/指示に従えず、課題をやり遂げられない/課題や活動を順序立てて行うのが困難/精神的努力を要する課題を避ける・嫌がる/よく物をなくす/外からの刺激で気が散りやすい/日々の活動を忘れがち
- **多動性・衝動性の症状例**；手足をそわそわ動かす/席を離れる場にそぐわず走り回る・よじ登る/静かに遊べない/常に動き回っているように見える（「エンジンで動いているようだ」）/おしゃべりが多すぎる/質問が終わる前に答え始める/順番を待てない/他人の邪魔をする/会話やゲームに割り込む
- 幼児（3～5歳）におけるADHD特性把握の重要ポイント；
- 発達水準を考慮する幼児はそもそも集中力が短く、活動レベルが高いのが通常。⇒ 同年齢の子どもと比べて著しく逸脱しているかを見る必要がある。
- 症状の強さと持続性：行動が一貫していて、家庭・保育園など複数の場面で見られるか。少なくとも6か月以上持続していること。
- 生活への影響：家族関係、対人関係（友達や保育士とのやりとり）、安全面（飛び出しなど）に明確な支障があるかどうか。

13

## ASD指標

- 一般的なASD特性で、基本的に、「社会性」領域と「順応性」領域と「コミュニケーション」領域から算出される。
- 幼児期のASD特性は、2つの症状群に分類されます：①社会的コミュニケーションと対人的相互反応の持続的障害・②】行動、興味、活動の限定された反復的な様式
- 【A】**社会的コミュニケーションと対人的相互反応の持続的障害**：**社会的・情緒的相互性の障害の例**：社会的接近の異常/会話のやりとりの困難/共感的な感情共有の乏しさなど。**非言語的コミュニケーション行動の障害の例**：アイコンタクト/ジェスチャー/表情などの使い方の異常や乏しさ。**対人関係の発達・維持・理解の困難の例**：友人関係の作りにくさ/ごっこ遊びの乏しさ/興味の共有が困難など。
- 【B】**行動、興味、活動の限定された反復的な様式**；常同行動（手をひらひらさせる、身体をゆするなど）/変化への強いこだわり（儀式的行動、ルーチンの変化を嫌う）/強く限定された興味の異常な集中（特定の物への強い執着など）/感覚刺激への異常な反応（過敏または鈍感）。
- 【C】発達早期に存在（ただし後になって明らかになることもある）/【D】社会的、職業的、その他の重要な機能に臨床的に明白な障害をもたらす/【E】知的障害や全般的発達の遅れでは説明できないこと
- 幼児（3～5歳）におけるASD特性把握の重要ポイント；発達水準を考慮する幼児はそもそも集中力が短く、活動レベルが高いのが通常。⇒ 同年齢の子どもと比べて著しく逸脱しているかを見る必要がある。/症状の強さと持続性：行動が一貫していて、家庭・保育園など複数の場面で見られるか。少なくとも6か月以上持続していること。/生活への影響：家族関係、対人関係（友達や保育士とのやりとり）、安全面（飛び出しなど）に明確な支障があるかどうか。

14

## DCD指標

- 一般的DCD傾向で、基本的に、「微細運動」領域と「粗大運動」領域から算出される。
- 幼児期のDCD特性は、① **A. 協調運動の獲得と実行が、年齢に期待される水準を著しく下回る、②運動の困難が、日常生活の活動（学業、遊び、余暇、身辺自立など）に明確な影響を与えている**
- **A. 協調運動の獲得と実行が、年齢に期待される水準を著しく下回る。**例：不器用さ/運動の遅れ/物を落とす/はさみやスプーンの操作が難しいなど、**日常動作や遊びに著しい困難が出る**
- B. **運動の困難が、日常生活の活動（学業、遊び、余暇、身辺自立など）に明確な影響を与えている**
- C. 症状は幼児期早期に出現（ただし、後から明らかになることもある）/ D. 知的障害や視覚障害、神経疾患では説明できない
- 幼児（3～5歳）におけるDCDの特徴と重要ポイント； 幼児期では**「粗大運動」「微細運動」「日常生活動作」**での不器用さがサインになります。
- **【粗大運動】**の特徴；（体全体の動き）転びやすい/バランスが悪い/走る・跳ぶ・登るがぎこちない/三輪車・ストライダーなどに乗れない/公園の遊具で遊びにくい/ボール遊び（キャッチ・キック）が苦手
- **【微細運動】**の特徴；（手先の動き）積み木、ブロックがうまくできない/クレヨンをうまく持てない/線が書けないぬり絵が枠からはみ出る/はさみで切るのが困難/パズルができない
- **【日常生活動作】**の特徴；着替えに時間がかかる（ボタン、ファスナーが難しい）/スプーンやフォークがうまく使えない（こぼす）/靴や靴下を履くのが難しい手を洗う/歯を磨くなどがぎこちない
- 幼児DCDの評価における注意点; 年齢相応の発達と比較する－発達水準に合っているか？ 例：「4歳で靴を履けるか？」など。 一貫性のある不器用さか－一時的なものではなく、継続的・全般的に見られるか。 支援が必要なレベルか－家庭や保育園で支障を来しているか

15

## 総合指数

- 総合指標は、例えば、就学を控えた段階で、子どもに対する個別の合理的配慮の必要性を予測する際に役立つ指数です。
- ここまでの、7領域や、3つの発達障害特性指数全体を、相互的に判断した指数となります。
- 5歳時検診において、これまでの乳幼児健診では把握できなかった子どもの発達障害特性を把握する際に有用です。
- 小学1年生のクラス編成において、同じクラスに総合指標における要配慮の子どもが複数（たくさん）在籍する場合、学級運営において、一定の困難が生じるリスクがあります。
- 個々の子どもの丁寧な支援においては、現状を客観的に把握し、配慮が必要な子ども、境界水準で配慮が必要な可能性のある子どもなどごとで、支援計画を立てていくことが求められます。

16

# 個別支援計画作成

17

## 全体的な評価（TASPから）

- TASPの7つの領域、3つの指数と、総合指数のなかで、子どもがどの程度の支援ニーズがあると考えられるのかを、同年齢（同月齢）の子どものデータとの比較のなかで示しています。
- TASPは軽度圏や境界圏の子どもたちに対してより感度よく設計されています。
- 5歳時検診での活用では、TASPの評価のなかで、要支援ニーズが見られることで、個別の支援につなげることができます。就学指導においても、適正就学に向けて、有用な資料となります。
- ただ、気をつけないといけないのは、あくまでも同じ月齢の子どもと比較した場合の評価でないといけないので、児童発達支援事業所のなかで障害の重い子どもと比較したり、子どもの成長の評価をするのではなく、苦手なものは苦手だと評価してあることが前提となります。
- なお、TASPクラウドにおいては、身辺自立関連項目は抜けている（補足スケールはある）ので、身辺自立における課題は別途設定することが望ましい。

18

## 社会性、コミュニケーションの評価（SAPLIから）

- SAPLIは、幼児の社会性やコミュニケーションの発達の現状を、玩具を使った遊びのなかで評価していくアセスメント手法です。
- UCLAのコニー・カサリ先生が開発した、JASPERのアセスメント手法であるSPACEを基に、その後の子ども同士の共同遊びまでを視野に開発されています。
- 要求、共有(共同注意)、子どもの遊びのレベルなどの視点で、子どもの社会性やコミュニケーションの発達の現状を把握することで、実際の支援に向けた方向性を明確にしていくことができます。

19

## 短期的な支援課題と、その取り組み

- 短期的な支援課題の作成においては、現在、養育者(保育者)や保育士等が困っている内容や、そうした形で困った行動が生じることになっていることに関わる適応行動を分析するとともに、TASPから見られた子どもの全体像のなかでの支援ニーズを考慮し、今すぐ取り組みが可能なことから取り組んでいく。
- TASPの領域や指標に表れるような、子どもの支援ニーズを踏まえ、現在取り組むことが難しいものを入れることは推奨しない。
- TASPの各項目の評価を見直し、「✕」よりは、「△」として、部分的に行動ができているものに関して、取り組みを進めていくことが考えられる。
- 特に社会性・コミュニケーション領域においては、SAPLIの評価結果を踏まえ、具体的な課題に取り組むことができる。
- なお、TASPクラウドにおいては、身辺自立関連項目は抜けている（補足スケールはある）ので、身辺自立における課題は別途設定することが望ましい。

20

## 長期的な支援課題とその取り組み

- 長期的な支援課題の作成は、TASPそのものがコホート研究を基に開発されており、長期的にどういう領域の苦手さを有しながら成長していくことが予測されるかを考えながら行うことができる。
- 個別支援計画の作成においては、TASPの7領域や3指数からみられる、子どもの支援ニーズを基に、どのような就学スタイルや支援の方向性を踏まえ、１つずつ取り組みが必要な支援内容を明確にし、就学後において毎年、具体的な取り組みを進めていくものであると考えられる。
- 基本的に、支援計画においては、不適応行動をやめさせるということではなく、不適応行動をしてしまうような場面・状況における、代わりにすべき行動(代替行動)の習得や発達促進につながる課題を設定し、課題ができたかどうかわかりやすく、成長が見られるものが望ましい。

21

## TASPの実施方法について

22

## 対象者と実施時期

**対象者**
年少・年中・年長の幼児

**実施時期**
保育・指導要録を作成する時期。3歳から就学までどの月齢でもクラウド版で評価できます。

**評価の重要事項**
評価は、**該当の月齢の子ども（定型発達の幼児）を想定した上で、その比較の中でおこなって下さい**。より重度の子どもよりいいとか、以前よりよくなっているという視点ではなく評価を行って下さい。

23

## 対象者と実施時期

**対象者**
年少・年中・年長の幼児

**実施時期**
保育・指導要録を作成する時期。3歳から就学までどの月齢でもクラウド版で評価できます。

**評価の重要事項**
評価は、**該当の月齢の子ども（定型発達の幼児）を想定した上で、その比較の中でおこなって下さい**。より重度の子どもよりいいとか、以前よりよくなっているという視点ではなく評価を行って下さい。

24

## 実施者

原則的に担任の保育士・幼稚園教諭がクラス内の子どもについて判定します。

**子どものふだんの様子を十分に把握していない先生が評定した場合、正しい結果を得ることが難しくなります。**

**相談支援担当者が、**担当の保育士等の話をよく聴取して評価することもできます。また、保護者からの話を総合し、保育の場面も含めて集団の中の子どもの様子を判断でき、なおかつ、子どもの様子を見て、評価することもできます。

25

## TASP登録～実施の流れ

1. スタッフがTASPユーザの招待コードを送付する
2. **支援者が招待コードの入力画面で招待コードを入力する**
3. **支援者がアカウントを作成する**
4. スタッフがアカウントにアプリ使用の権限を登録する
5. **支援者がこどもの登録をする**
6. **TASPを実施する**

**太字**の部分が支援者の方に行っていただく作業です。
※ブラウザの戻るボタンは使用しないでください

26

## 招待コードの入力

スタッフより送付された招待コードを招待コード入力欄に入力してください。

- 招待コードは大文字の**ランダムな文字列**です
- 招待コードは**2日間有効**です
- 招待コードを使ってユーザ登録が成功すると**その招待コードは使えなく**なります
- 招待コード入力ページ
https://tsujiilab.com/verify

27

## アカウントの作成

希望の登録方法を選んで
アカウント登録をしてください。

28

## こどもの登録（1）

ダッシュボード画面から
**こどもの一覧・登録へ**
と書かれた文字をクリックしてください

29

## こどもの登録（2）

1. こども一覧画面の右上にある
**登録・編集**タブ
に触れてください
2. **こどもを登録**ボタン
を押してください

画面が小さい場合は右のように表示されることがあります。
**メニュー**ボタンを押すと
**登録・編集**ボタンが現れます。

30

## こどもの登録（3）

「こどもID」「施設」「性別」
「誕生日」を入力して
**新規登録**ボタンを押してください。

31

## TASPの実施（1）

ダッシュボード画面から
**TASPの実施**
と書かれた文字をクリックしてください

32

## TASPの実施（2）

1. 「評定年月日」を入力してください
   ※「施設名」と「施設種別」は自動で入力されます
2. **評定対象こどもの選択**ボタンを押して評定を行うこどもを選択してください
   ※こどもを選択すると「こどもID」「生年月日」「性別」が自動で入力されます

33

## TASPの実施（3）

1. 1～35までの設問に答えてください
2. **診断結果の作成**ボタンを押してください
   ※評定情報や設問の回答に空欄がある場合はエラーメッセージが表示されます

34

## TASPの実施（4）

**望ましい行動に関する項目**（静かに休息する、他児の動きを見て行動がとれる等）

「いつでもできる」場合は○
「たまにできる」場合は△
「全くできない」場合は×

**望ましくない行動に関する項目**（大きな声を出さない、場面にふさわしくないことを言わない等）

「全くしない」場合は○
「たまにしてしまう」場合は△
「いつもしてしまう」場合は×

35

## TASPの診断結果

評定情報や評定結果、各設問で選択した内容が表示されます。
**PDF表示**ボタンを押すとPDFで表示します。

コメント欄にコメントを入力し、**コメントを更新**ボタンを押すとコメントが保存されます。
※コメントを更新する場合は必ず1文字以上文字を入力してください

36

## TASPログの検索（1）

ダッシュボード画面から
**履歴検索へ**
と書かれた文字をクリックしてください

37

## TASPログの検索（2）

自身が所属している施設の方が過去に入力したTASP診断結果の一覧が表示されます。
**閲覧**という文字を押すとTASP診断結果を閲覧することができます。

評定対象者ID（こどものID）で診断結果を検索することができます。

38

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

39